

# センジモンって、 なあに？

— 五書体<sup>ごしょたい</sup>にみる千字文<sup>せんじもん</sup>のいろいろ —

天地玄黄 宇宙洪荒 日月  
盈昃 宿列張寒 來暑往  
蟄蟲 咸俯 罔不 昭然



2011年 5月27日(金)～8月31日(水)



【開館時間】 9:30～16:30 (入館は閉館の30分前まで)

【休館日】 月曜日 (ただし7月18日は開館)、7月19日

【観覧料】 一般・大学生 500円 (300円)

高・中・小学生 250円 (150円)

※ ( ) 内は20名以上の団体料金

毎週土曜日は台東区内在住・在学の小中学生とその引率者の入館料が無料になります。

【主催】 (公財) 台東区芸術文化財団

【住所】 〒110-0003 東京都台東区根岸2-10-4

【電話】 03 (3872) 2645

【ホームページ】 <http://www.taitocity.net/taito/shodou/>

◎JR 相模駅北口下車 徒歩5分

◎台東区循環バス「北めぐりん」

◎「入谷区民館根岸分館」(書道博物館) 下車 徒歩3分

※駐車場はありません



書道博物館  
CALLIGRAPHY MUSEUM



# センジモンって、 なあに？

「五書体」にみる千字文のいろいろ

「天地玄黄、宇宙洪荒」ではじまる千字文は、四字一句が二百五十句ならんだ中国の四言古詩です。千字の漢字が、一文字も重複することなく使われています。

千字文は、日本の「いろは歌」のようにリズムカルで読みやすいため、中国や日本において読み書きの教科書として広く普及してきました。

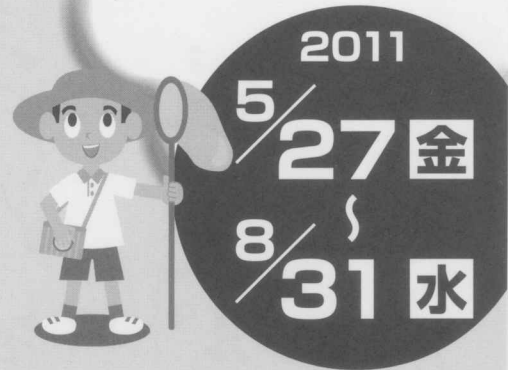
千字文の作者は、梁時代の周興嗣(470?~521)といわれています。梁の武帝は、王子たちに書を習わせるため、殷鉄石に命じて王羲之の筆跡の中から重複しない文字を千字集めて模本をつくらせましたが、出来上がったものは、単に千字が何の規則性もなくバラバラに並んだ状態であったといえます。これでは手本として使いづらく、覚えにくいだろうと、当代随一の文章家であった周興嗣を呼び出し、これを韻文になるよう考えてほしいと依頼しました。そこで周興嗣は、この千字を用いた韻文一篇を一晚で作りましたが、その苦心のために髪が真っ白になったといわれています。

千字文は、韻文の美しさもさることながら、文字の習いやすさから、手習いのテキストとしても珍重されました。歴代の能書家たちの多くは、この千字文を作品に残しています。本展では、楷書、草書、行書など、さまざまな書体で書いた千字文を、拓本や肉筆作品から紹介いたします。

中国の作例として、千字文を八百本臨書したといわれる隋時代の智永(楷書・草書)、唐時代の三大家である欧陽詢(楷書・草書)や褚遂良(楷書・行書)、宋時代の米芾(楷書)や夢英(篆書)、元時代の趙孟頫(楷書)、明時代の文徵明(隸書・草書)、清時代の楊賓(楷書)などの千字文を展示いたします。

また、日本の作例として、江戸時代における唐様書の大家で知られる北島雪山(行書)や細井広沢(楷書)の千字文、近代の作品では書道博物館の創設者である中村不折の千字文三種(楷書・行書・草書)などを紹介いたします。

初学者のための教科書として、また書のお手本として流布した千字文。千字の漢字が放つパワーと美しさを感じてくだされば幸いです。



## 【ギャラリートーク】

日時：①6月26日(日) 10:00~、13:30~  
②7月24日(日) 10:00~、13:30~

## 【キッズセミナー】

「センジモンってなんだろう？」  
小・中学生対象のギャラリートークです。

日時：③8月7日(日) 11:00~

※会場が手狭なため、どちらも事前申込制で各回20名。往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望日時を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記して下記までお申込下さい。聴講無料。ただし当日の観覧料が必要です。

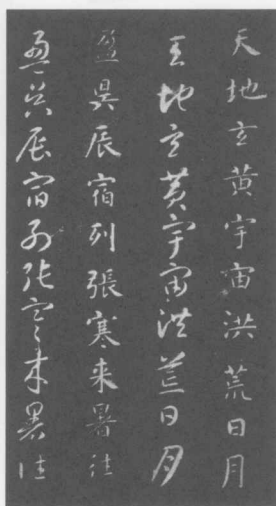
申込先：〒110-0003 台東区根岸2-10-4  
台東区立書道博物館  
ギャラリートーク係  
キッズセミナー係 まで

締切：①6月15日(水)  
②7月13日(水)  
③7月27日(水) 必着

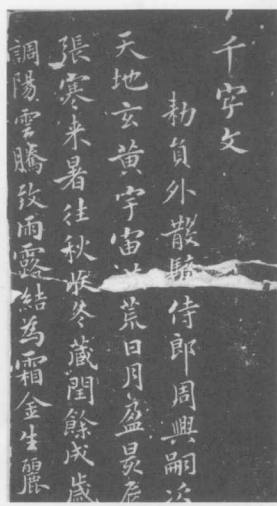
## 【ワークショップ】

「センジモンをかこう！」

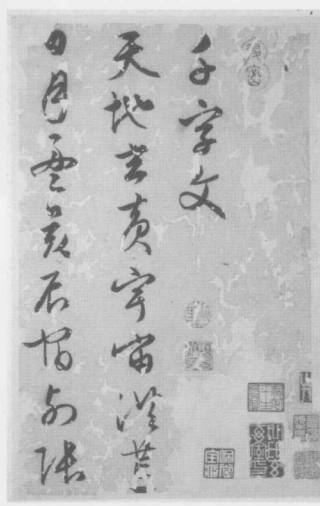
会場：台東区立書道博物館  
日時：6月26日(日)、7月24日(日)、8月7日(日)  
いずれも開館時間中随時  
※参加費無料、ただし当日の観覧料が必要です。



智永「真草千字文」



褚遂良「行書千字文」



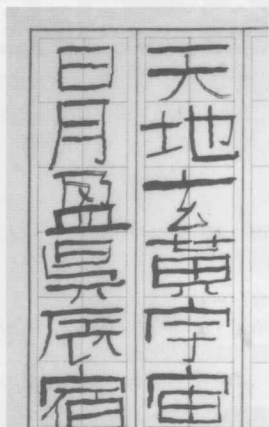
文徵明「草書千字文」



北島雪山「行書千字文」



細井広沢「楷書千字文」



中村不折「楷書千字文」